



伊丹市立幼児教育センター通信

## ときめき ひらめき

Vol 12 (令和5年2月)  
発行: 伊丹市立幼児教育センター  
住所: 伊丹市千僧 1-1  
電話: 072-780-2488  
アドレス:  
youkyosenta@city.itami.lg.jp

### ★伊丹市幼児教育シンポジウム2022開催しました

2022年12月4日(日)、東りいたみホール大ホールにて、「子どもが夢中になって遊び、よく考える環境の構成」の観点での、子ども主体の教育・保育の共通理解と推進を目的とした『伊丹市幼児教育シンポジウム2022』を開催しました。

玉川大学教授の大豆生田啓友氏の基調講演「子ども主体の教育・保育を目指して」の中では、「主体性を尊重する」とは、その子の「主体」、つまり「その子らしさ」を尊重する事であり、そのような関係性の中でこそ、子どもは能動的になることができる、という話がありました。また、「主体性」という言葉を、「積極性」「自主性」と(誤って)捉えてしまっていないか?という先生の問いかけもありました。これらのことは、日頃の私たちの「子どもへのまなざし」を振り返り、問い直すべき大事なこととして受け止めたいものです。

また、環境の構成については、「保育の質は環境の構成から」と、その重要性について、以下のような具体的なポイントを含めてお話いただきました。

#### 乳幼児期にふさわしい環境の構成のポイント

- ・子どもが、おもちゃなどを自由に取り出せる環境になっているか?
- ・保育室など、ゆるやかなコーナーなどが作られているか?
- ・様々な種類の素材や材料、道具が用意されているか?

ぜひ折に触れて振り返り、日々の子どもの興味や関心に応じた保育の環境づくりに活かしていきましょう。

続いて、有岡乳児保育所、クレヨン保育園、いけじり幼稚園、北保育所の4つの市内就学前施設による「環境の構成」に焦点を当てた保育実践の発表がありました。特筆すべきは、4施設の内2つが私立園であったということです。施設の類型や公私の別なく、保育の質の向上(子ども主体の保育を目指す)に取り組む本市の就学前施設の広がりが伝わる、すばらしい発表でした。

最後に、関西学院大学教授の橋本祐子氏をコーディネーターとするパネルディスカッションにおいて、大豆生田先生による各実践発表への講評や、「保護者への啓発」「職員間の学び合い」等、発表内容からさらに踏み込んだの討論を行いました。

当日は、市民の方や教育関係者、市外県外各地からお集まりいただき、400名を超える参加がありました。これからも幼児教育センターは幼児教育・保育の質の向上に向けて、皆様と共に邁進してまいります。



パネルディスカッションでは、子どもが遊び込む環境の構成のあり方等について、実践発表を行った4施設から活発な意見交換がなされました



大豆生田先生から豊富な実践事例の紹介を含めてお話いただきました。

## ★アンケートのご協力をお願い★

「令和4(2022)年度 伊丹市の幼児教育に関するアンケート」を実施します。

近日中にメールにてお送りします。本年度の本市の幼児教育・保育を振り返り、次年度の幼児教育センター事業に反映してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

## ★アドバイザー訪問より

一月下旬から二月上旬にかけて、複数の公立園において講師を招聘しての園内研修会、研究会があり、アドバイザーも参加してきました。

ある幼稚園では、外遊びの時間、5歳児がクラスのほとんど全員で「氷鬼」をし、園庭を所狭しと駆け回っていました。しばらくすると少し離れた所で、3歳児と4歳児の数人で「ミニ鬼ごっこ」が始まっていました。園庭の端で、鬼が「待て待て!」と笑顔で追いかけ、逃げる側も、逃げていても、捕まっても笑顔いっぱい、ほのぼのとした鬼ごっこでした。「ダイナミックに駆け回る、迫力満点の年長組さんの鬼ごっこに入るのは、少し気後れがするなあ…でも、自分たちもあんなふうにやってみたいなあ」3歳児と4歳児の、そんな思いが伝わってくるような姿でした。

このように、言葉や説明がなくても、子どもは遊びの中で互いの姿をよく見て学んでいます。年長児へのあこがれは、「自分もやりたい」「やってみよう!」という意欲(=学びに向かう力)につながります。

またこの園では、異年齢で関わりあって遊ぶ姿が他にもあちこちでみられていました。同じ年齢の友達同士なら暗黙の了解や言葉で簡単に伝わることも、自分より小さな友達にわかってもらうように伝えるには、やって見せる、簡単な言葉で伝える、わかったか確認する等、様々な工夫が必要です。異年齢の関わりは、相手の立場に合わせること、コミュニケーションの仕方を工夫すること等、様々な学びの機会を与えてくれます。

もうすぐ進級し、一つ大きくなる子どもたち。年長児にあこがれて「ミニ鬼ごっこ」をしていた子どもたちも、今度は園の先輩として、新しく入ってくる友達へのよい刺激となってくれることでしょう。

## ★おススメ保育専門書

### 「あそびの中の学びが未来を開く 幼児教育から小学校教育への接続」

編著：田澤里喜 吉永安里

出版：世界文化社



1月の「幼小接続研修会」において、幼児期の遊びを通しての学びを小学校教育へつなぐ重要性について熱く語ってくださった、國學院大學 吉永先生の著書。

子どもの興味関心から始まり、試行錯誤や協同的な活動へ発展していく保育実践とともに、「おもしろい!」「45分の授業時間なんてあっという間!」と感じる小学校の授業の事例も豊富に紹介されています。「主体的・対話的で、深い学び」を通して、資質・能力を、幼児期から児童期へ一貫して育むためのヒントが詰まった一冊。

☆ご紹介の専門書は貸本として幼児教育センターに置いています。是非お越しください。

### 「幼保連携型認定 こども園における 園児が心を寄せる 環境の構成」

内閣府・文部科学省・厚生労働省  
出版：株式会社フレーベル館

「環境を通して行う教育及び保育」の基本的な考え方、園児の理解に基づいた環境の構成の考え方、ポイントなどの理論と共に、豊富な実践事例が掲載されており、参考になります。

